

福島県男女共生センター広報誌

2018
VOL. 68
miraikan news
NEWS

未来館



特集 男性の家事・育児参画

事業レポート お父さんと一緒に食を考えよう。
LGBT 講演会

(未来館フェスティバルポスターに採用されたイラスト (2015年))

特集 男性の家事・育児参画

働き方改革や女性の活躍推進など、男性も女性も働きやすい職場の環境整備が少しずつ進んできているようです。出産や子育て、介護をしながら働き続けられる職場にするため、制度をつくり、利用しやすい職場環境を整えている企業が増えてきています。

では、家庭内はどうでしょうか？イクメンや家事メンが増えたとは言え、家事や育児等は主に女性が多くを担っているのが現状です。ここでは男性を対象としたデータから、生活する上で必要な家事・育児について考えてみました。

● 男性の家事・育児時間

内閣府の調査によると、日本の6歳未満の子どもを持つ夫の家事・育児関連時間は1日当たり83分と、最も長いスウェーデン（201分）と比べ、118分も短くなっています。国は、2020年まで1日あたり150分を目標としています。（図1）そして、福島県の男性の家事・育児関連時間は70分と全国平均より低い結果でした。（図2）

図1：家事・育児時間の国際比較（H28年）

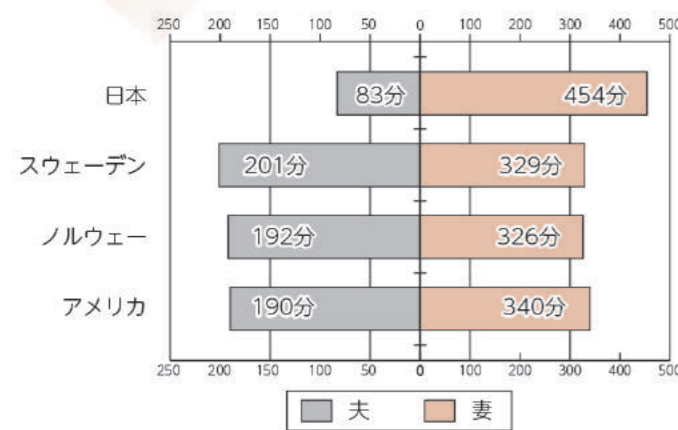


図2：男性の家事・育児関連時間の全国比較

順位	都道府県名	(分)
1	東京都	121
2	山口県	103
3	群馬県	102
4	岩手県	99
4	沖縄県	99
5	佐賀県	96
6	栃木県	95
7	秋田県	90
7	広島県	90
8	埼玉県	89
8	愛知県	89
9	大分県	88
10	千葉県	87
10	徳島県	87
22	福島県	70

図1・図2：内閣府男女共同参画局「男性の暮らし方・意識が変われば日本は変わる」を参考に作成

● 働く男性の現状

週60時間以上の長時間労働をしている男性は平成29年度の労働力調査（総務省）によると全体の約12%で、特に30～40代の子育て期の男性は約15%が週60時間以上の長時間労働をしています。（図3）そもそも家庭にいる時間が短いため、家事や育児に時間を使うことができないのが現状のようです。長時間労働が当たり前だという働き方の見直しが必要です。

また、仕事が忙しいため、休暇を取得しづらい職場の雰囲気により、制度を整えても利用することが難しい場合もあり、制度だけではなく、職場環境の整備も不可欠です。

共働きの家庭が増えたとはいえ、男性の所得が世帯の中心という家庭は少なくありません。特に、育児休業に関しては、育児休業給付金の制度を利用すれば、制度上収入の約7割（67%）手取りだと約8割は保証される場合がありますが、収入減少になることは確かです。職場と家庭の両方の環境整備ができないと男性の家事・育児参画は難しい状況です。

育児休業給付金は、雇用保険の被保険者が一定の要件を満たすと受けることができます。「パパ・ママ育休プラス制度」という男性も育児休業を取得しやすくする制度もあります。

詳しくは、厚生労働省のホームページなどをご覧ください。

男女共に家事も育児も仕事となると、それぞれが家族の一員として家庭環境を整えていく必要があります。「男性は仕事、女性は家庭」という性別役割分担意識をなくし、「お手伝い」の意識ではなく、家事や育児を主体的に参画（※1）することが重要です。家庭での時間の使い方や役割分担など、家庭で話す機会を持つてみてはいかがでしょうか。

（※1）「参画」とは、計画段階から主体的に関わることです。

図3：年齢別週60時間以上の男性就業者の割合（H29年）

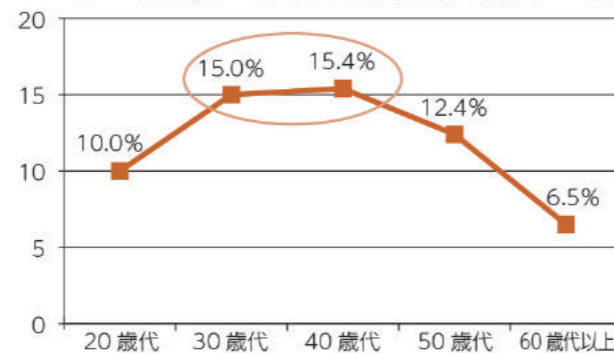


図3：内閣府ホームページ、「夫の協力」を参考に作成

F-ぱぱプロジェクトの活動について

福島県内で子育てをしている父親たちの交流を図りながら、「福島でパパを楽しもう!!」と活動しているF-ぱぱプロジェクトについて紹介します。F-ぱぱプロジェクトの事務局のNPO法人ビーンズふくしま（以下：ビーンズふくしま）の中鉢博之さん、直接運営をしている復興交流拠点「みんなの家セカンド」の森淳美さん、佐藤静香さんに話を伺いました。

F-ぱぱプロジェクトを始めたきっかけ

2012年に被災・避難した子どもと子育て家庭の中長期にわたる支援を目的とし、「東日本大震災中央子ども支援センター」が創設され、福島県の窓口としてビーンズふくしまが受託しました。その中で県外に母子避難しているママたちから「仕事のため福島に残っているパパたちが心配だ」という声が多く聞かれるようになりました。母子避難の支援だけではなく、福島に残っているパパたちの支援も必要だと思い、母子避難をしているパパたちの当事者グループとして、F-ぱぱプロジェクトを立ち上げました。



左から中鉢さん、佐藤さん、森さん

F-ぱぱプロジェクトの活動

当初は、ママたちの「福島県に残してきたパパの健康が心配だ」という声が多かったため、パパの料理教室をしようかと考えましたが、平日は仕事、休みの日は県外の母子避難をしている家族の所に何百kmも車を運転して往復しており、パパたちも疲弊していました。今は心のケアや癒やしの方が必要だということで、家族が避難しているパパ、避難していたパパを対象に福島での生活について、自分自身のことや父親としての思いなど、お酒を飲みながら交流できる場として「ぱぱカフェ」が始まりました。月に1回みんなで集まるうちに、信頼関係ができていき、本音や悩みを安心して話せる場所ができました。

その他、F-ぱぱプロジェクトの皆さんと一緒に「芋煮&バーベキュー祭り」や「サマーキャンプ」などのイベントを企画し、親子で一緒に体験したり、家族同士の交流を図ったりしています。昨年度開催して好評だったのが、「ホワイトデー大作戦」です。パパと子どもたちがママのためにスイーツを作り、お互いに感謝の言葉を贈り合います。日頃言えない感謝の気持ちを言葉にするよい機会だという声が多く、今年度も平成31年3月2日(土)に開催する予定です。

今後の活動について

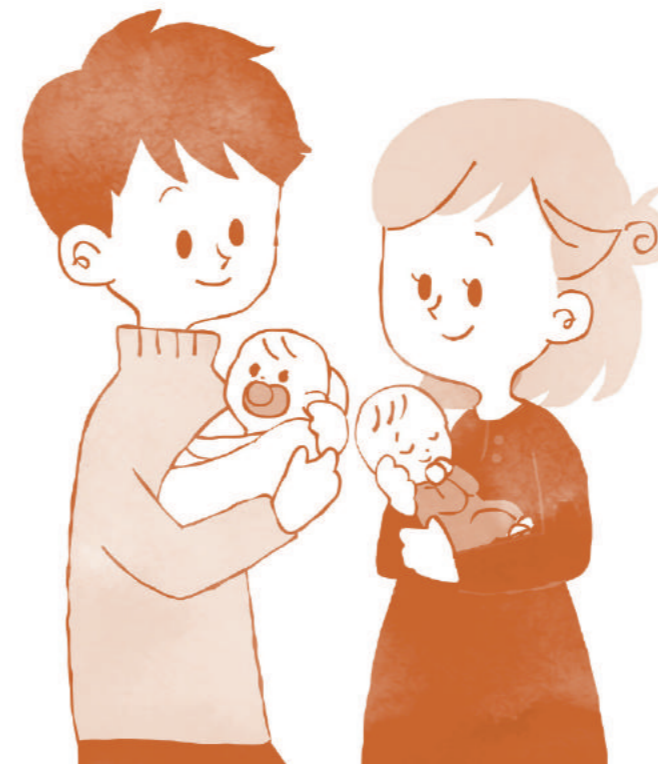
東日本大震災を機に始まった活動ですが、現在では、福島県で子育て中のパパたちを対象に活動を行っています。皆さん仕事がありますので、活動を広げることは簡単ではありませんが、今後も現在の活動を継続していけたらよいと思います。

その他、ビーンズふくしまでは、福島市から受託した子育て支援センター「みんなの家@ふくしま」も運営しています。子育て世代を含めた地域の交流の場として、安心して自分らしくいられる場所を作っていきたいと思っています。

復興交流拠点みんなの家セカンド
(運営：NPO法人ビーンズふくしま)

電話：024-573-7072

Mail：info-minnanoi@beans-fukushima.or.jp



事業レポート1

働く母親を応援する 男性・子どもの生活自立支援事業

お父さんといっしょに食を考えよう。

日時：平成30年7月28日(土) 10時～13時
共催：特定非営利活動法人全国女性会館協議会、日本テトラパック株式会社



働くお母さんの家事負担を軽減し、男女共に働き、家事・育児を担うワーク・ライフ・バランス支援のため、お父さんと子どもの食事づくりワークショップを開催しました。

お父さんと小学校4～6年生のみなさん16名が参加し、楽しく「おうちごはん」を作りました。

講師の山際博美さんから、手際よくごはんをつくるためのコツを教わり、4品の調理にチャレンジしました。

実際の調理時間は1時間ほど。そのなかで4品作ることは少し大変でしたが、段取りよく進めることで効率よく作れることがわかりました。



参加した皆さんの感想



お父さん

- ◆子どもと協力して料理を学ぶことができてよかったです。
- ◆料理をする前の準備から片づけまで教えてもらい、とても勉強になりました。
- ◆子どもと一緒に料理をする楽しさが増えました。



お子さん

- ♪今日作った料理を家でも作って、お母さんに食べてもらいたいです。
- ♪とても楽しくて、作った料理もおいしかったです。苦手なトマトも食べられました。
- ♪食べ物の大切さ・食べることの大切さも教えてもらいました。

山際さん



メニュー

- ☆トマトと卵のスープ
- ☆肉じゃが風 コーンとベジタブル入り
- ☆ピーマンの肉づめ コーン入り
- ☆車麩のフレンチトースト

〈山際シェフのワンポイントアドバイス〉

いくつかのメニューを同時に調理するときは、材料をまとめて切ると効率よくできますよ

ピーマンの肉づめ コーン入り

【材料】(4人分)
ピーマン……4個 豚ひき肉……200g
卵……1個 薄力粉……少々
コーン……50g 玉ねぎ……100g
塩、こしょう……少々
ソース
ウスターソース……50cc トマトケチャップ……100g
レモン汁……10cc

- 【作り方】
- ① 具を作ります。豚ひき肉に卵、玉ねぎのみじん切り、コーン、塩、こしょうを入れ、混ぜます。
 - ② ピーマンは縦に切り、中の種をきれいに掃除します。
 - ③ ピーマンの内側に薄力粉をふり、①の具を詰めます。
★ピーマンの内側に薄力粉をふるのは、お肉とピーマンをくっつけるためです
 - ④ 160℃のオーブンで15分焼き上げます。
 - ⑤ ソースの材料をボールに入れ混ぜ、かけていただきます。

車麩のフレンチトースト

【材料】(4人分)
車麩……4枚 バター……適量
卵……1個 牛乳……100cc
メイプルシロップ……適量
シロップ
水……300cc グラニュー糖……150g

- 【作り方】
- ① 水とグラニュー糖を混ぜてシロップを作り、車麩を20～30分漬けます。
 - ② 車麩を軽く絞り、クッキングペーパーで水気を切ります。
 - ③ 卵と牛乳をボールに入れ、かき混ぜます。
 - ④ ②の車麩を③に入れ、ひたします。
 - ⑤ バターを入れたフライパンで表面を焼きます。
 - ⑥ 150℃のオーブンで10分焼き上げます。
 - ⑦ メイプルシロップをかけて、いただきます。

そのほかのメニューのレシピは、福島県男女共生センターホームページに掲載しています。

センター図書室の「男性の家事・育児参画」に関するオススメ本



「パパは大変」が「面白い!」に変わる本 「仕事も家庭も」世代の新・人生戦略

安藤哲也+NPO法人ファザーリング・ジャパン/著
扶桑社 2017年【分類3206/A】

家事・育児は「やらされる」時代から「して当たり前」と男性の意識も変わりつつあります。しかし、家庭と仕事の両立に悩みを抱えるパパはたくさんいます。そんなパパに向けて、ジレンマを克服するコツや先輩パパの体験談が語られています。子育てという家族の絆が深まる大切な時期を笑顔で過ごすためのヒントが満載のパパ用の育児書です。

育児は仕事の役に立つ 「ワンオペ育児」から「チーム育児」へ

浜屋祐子・中原淳/著
光文社 2017年【分類3206/H】

夫婦世帯の68.1%が共働き世帯となり、今後も増加していくことが予想されます。この状況下で、子育てと仕事を両立するためには、「育児の体制づくり」を夫婦間できちんと話し合うことが大切であり、育児経験が仕事にもポジティブな影響をもたらすと研究データから著者は分析します。共働き夫婦必読の一冊です。

問い合わせ 福島県男女共生センター図書室
電話:0243-23-8308 開館時間 9時～20時(休館日前日は17時)

コラム:「統計の数字から見る男女共同参画」

男性の育児休業取得率(福島県3.2%、全国5.14%)

福島県の男性の育児休業取得率は3.2%で、前年度(3.8%)より0.6ポイント減少しており、依然として低い値です。(平成29年労働条件等実態調査(福島県)より)そして、全国は5.14%で、前年度(3.16%)より1.98ポイント増加しました。(平成29年度雇用均等基本調査(厚生労働省)より)

男性の育児休業取得を増やすためには、企業が制度を整備するとともに、取得できる職場環境を整えること、また、取得しやすい雰囲気作りも大切です。

福島県からの お知らせ

地域で 職場で 男女共同参画を進めましょう! 男女共同参画推進アドバイザー 派遣事業

県では、男女共同参画社会の推進のため、地域や事業所などで男女共同参画に関する講演会や研修会を開催する場合の講師、懇談会などのアドバイザーを無料で派遣する事業を行っています。

この機会を利用して、地域や職場、家庭での「男女共同参画」、「女性の活躍推進」、「人権問題（セクハラ、DV等）」などについて考えてみませんか。

詳しくは下記まで御連絡ください!

対象 県内に事業所がある企業、団体など
連絡先 福島県男女共生課
電話 024-521-7188
FAX 024-521-7887

速報

未来館フェスティバル 2018 ~見つけよう!!ひとりひとりのハッピーライフ~

9月1日(土)、2日(日)の2日間、「未来館フェスティバル2018」が開催されました。

株式会社サイボウズ代表取締役社長の青野慶久さん講演会を始め、未来館ネットワークカフェ、認知症介護セミナー、県民の皆様による多彩な企画とさまざまな催し物が行われました。

今年は延べ4,905人と、多くの方にご来場いただき、賑やかなフェスティバルとなりました。



詳しい内容につきましては、次号にてお伝えいたします。
どうぞお見逃しなく!!

事業レポート2

LGBT 講演会



昨年度に引き続き、「学校現場におけるLGBTの児童生徒への対応」と題し、講演会を行いました。講師は、千葉県柏市立西原小学校教頭の中光理恵さんです。

中光さんは中学校教員だった当時、性同一性障害の生徒の担任を受け持った経験から、学校を誰もが生きやすい環境にする必要性を痛感させられました。保護者、学年の先生、管理職、生徒と懸命に働きかけを行い、学校現場でLGBTの生徒への対応をされました。また、ゲストスピーカーとして当事者の保護者である尾崎文子さんにもお話いただき、LGBTへの理解を深めました。(以下は講演会資料の一部をまとめたものです。)

性的マイノリティについて

異性愛者のマジョリティー【多数派】に対して、同性愛者、両性愛者、性同一性障害等を性的マイノリティ【少数派】という。その割合は日本人の人口の7.6%で、この数字は左利き、AB型の割合にも近い。

性の基礎知識

性には3要素がある。生物学的性(からだの性)、性自認(こころの性)、性的指向(好きになる性)

LGBTとはLGB(性的指向) / T(性自認)を合わせたものであるため、分けて考える必要がある。

実際の対応

カミングアウト=これまで公表していなかった性的指向や性自認を他人に話したり打ち明けたりすること。

アウティング=他人の秘密をその人の許可なく暴露すること、されること。

例：一橋大学アウティング事件
2015年に同性愛の恋愛感情を告白した相手による暴露をきっかけとしてゲイの学生が投身自殺したとされる事件のこと。

カミングアウトは必ずしなければならないものではなく、アウティングの危険性もはらんでいるため、本人と保護者の意思を尊重する。

カミングアウトされた時は「よく話してくれたね。分からないことが多いのでこれから一緒に勉強していくからね」など共感し、歩み寄り姿勢が大切。

学校現場でLGBTを扱う意義

教職員の誤った認識がいじめの呼び水となり、不登校、自殺につながることもある。性的マイノリティの子どもたちはいじめ、からかいの対象となりやすく、自己否定、自己嫌悪に陥りやすい。(いじめ、暴力を受けた…約7割、自殺を考えた…約3割)

世界の動き

2015年のオリンピック憲章から「~憲章の定める権利と自由は、人種、肌の色、性別、性的指向~」という文言が入り、マスメディアの取り上げる機会が増えた。東京オリンピックにも大きく影響。国連においても近年はLGBTよりSOGI(Sexuality Orientation and Gender Identity)と標記するようになってきている。

それでもなお、同性愛等を犯罪とみなし禁固刑、死刑を言い渡す国もある。

学校現場における最優先事項

1. LGBTに基づく差別やいじめを許さない方針化
2. 子どもがLGBTについて相談可能な場の確保
3. 児童生徒向けにLGBTについての指導を行うための制度
4. LGBTについて子どもたちが学べる環境整備
5. LGBTの子どもたちへの授業における配慮
6. LGBT当事者である子どもへの支援と保護者の支援

千葉県柏市の取り組み

1. 全教職員対象のLGBT研修の実施
夏季研修講座の1コマとして全小中学校教職員に対し実施
2. ジェンダーレス制服の導入
2018年開校の柏の葉中学校において「性差のない制服」(ジェンダーレス制服)を導入



「いろいろな働き方を考える。」

bel*fonte

ホームページ：http://belfonte.info/

E-mail：belfonte.fukushima@gmail.com

福島県内の働きたくても働けない女性（主に子育て中やパートナーの転勤等によって福島に住むことになった女性）が社会と繋がり、いきいきと生活できる仕組みを創ろうという活動を行っている団体があります。

ご自身も県外から転入された「bel*fonte（ベルフォンテ）」代表の藤本菜月さんにお話を伺いました。

bel*fonte を始めたきっかけ

東京で仕事をしていたのですが、結婚を機に夫の仕事の関係で知り合いがいない福島県南会津町に住むことになりました。最初の半年は孤独で、転勤族のため定職にも就けないというもどかしさを感じてとても辛かったのを思い出します。

契約社員として南会津の観光に携わる仕事をしているうち、「南会津のイメージをよくしたい。」という同じ思いをもった友人たちと、若い人が買いたくなるようなおしゃれでかわいいお土産を作ろうと bel*fonte を立ち上げました。bel*fonte はイタリア

語で「美しい水源」という意味です。南会津は水がきれいなところですし、商品のアイデアが次々とわき上がってくるようにという願いを込めました。

最初に作ったのが、きれいな水と地酒、トマトやはちみつなどの特産品を活かした手作り石けんでした。



藤本菜月さん

bel*fonte の活動について

現在は、8人の作り手さんが分担して会津木綿や尾瀬の鹿革など福島県の地域資源を活用した商品を作っています。家でできる仕事なので、子育て中の女性や転勤族の妻などが働いています。南会津の道の駅や、会津若松の雑貨店など県内10ヶ所で販売しています。

その他、今年度から転入女性が暮らしやすい福島を作ることを目指した活動も始めました。地域の事を学びながら仲間作りを目的とした「WELCOME ワークショップ」や、転入女性の悩みや相談、情報交換、ネットワーク作りを目的とした「転入女性のしゃべり場」を開催しています。

知り合いがいない土地に来て、地域に馴染むことは大変です。せっかく福島で生活することになったからには、家事や育児だけではなく、福島での生活を楽しく



で欲しい。bel*fonte の作り手さんの作業風景（藤本さん提供）活動を通して、そういう女性を増やしたいと思っています。そして、また次の転勤した先で福島の良さを話せるくらい福島を好きになって欲しいのです。私が南会津を大好きになったように。

今後の活動について

現在、転入する女性のために福島での生活情報を発信するサイトを作っています。知り合いのいない土地での生活は孤独で不安です。福島での生活について事前に知ることができれば不安は少し解消され、そこから、つながりができ、福島での生活を楽しくすることができます。さらに、そのサイトに掲載する記事を転入女性の方に当事者の目線で書いてもらいたいのです。10月以降ライター講座も実施する予定です。サイトを立ち上げることで新たな仕事を作ることができればもっとよいですね。

bel*fonte の活動を通して社会と繋がり、女性たちがいきいきと生活できる仕組み作りは、福島の良さを発信してくれる強い力になると思っています。

会津木綿や
尾瀬の鹿革を
使った作品



左のよだれかけは藤本さんがご自身のお子さんのために作ってもらったものを商品化。かわいいだけではなく、機能的な性能が抜群です。